



Club Weekly Bulletin

■創立：昭和54年1月23日 ■例会：毎週火曜日 17:30
 ■事務所：奈良市大宮町6丁目2-1 南都銀行大宮支店内 電話 0742-33-8583
 ■例会場：奈良市高畑町1096番地 奈良ホテル本館 電話 0742-26-3300(代)
 ■会長：井上正行 ■副会長：北神徳明 幹事：増井義久



卓話 シバタ製針株式会社 代表取締役 柴田 修 様

会長報告

- 先週の土曜日に地区奈良第一グループ7クラブで会員増強地域別会議が奈良商工会議所で行われました。地区からは熊本國勝ガバナー補佐、杉本直会員増強拡大委員長、鍵岡正隆委員、宮西正伸委員がご出席され、当クラブからは私と高野会員増強委員長、そして3年未満の会員ということで堀内さんに出席して頂きました。内容については後程会員増強委員長から報告して頂きます。
- 今月初めにお願いしておりました台風12・15号による奈良県南部、五條市並びに十津川方面に対する御見舞いの義援金ですが、来月1日で締切させて頂き、次の週に幹事と持参しようと思っております。まだ数名の方が残っておられるようですので、宜しくお願い致します。
- 10月19日に行われました県下ロータリークラブ親睦ゴルフ大会につき、ホストのあすかロータリークラブ会長より御礼の手紙が届いております。

委員会報告

社会奉仕委員会・多田実委員長

11月5日(土)ダルクの講演会を開催いたします。本日出欠表を回覧しておりますので、出来る限りたくさんの方のご出席をお願いいたします。本日、例会終了後に委員会を開催いたします。当日の役割分担等の話をさせていただきます。

会員増強委員会・高野委員長

会長報告にもありましたが、先日、会員増強の地域別会議に行っていました。お手元に両面印刷された資料がございますが、これは宮西さんに纏めて頂いたものですが、ご覧頂けたらと思います。まず奈良県下のRC年齢分布表ですが、先日7クラブで色々なことを話し合いましたが、当クラブについては現在のところ会員増強にさほど切羽詰まった危機感というのは持っていないというようなことを申し上げました。この年齢分布表を見ると、いずれ当クラブも切羽詰まった状況になって

Vol.33

No. 1575

HP : <http://naraomiya-rc.jp>
 E-mail : info@naraomiya-rc.jp

2011~12年度 当クラブテーマ
 『クラブの未来のために
 リーダーを育成しよう』



国際ロータリー第2650地区
 ガバナー 今西 信裕



四つのテスト

- 真実かどうか
- みんなに公平か
- 好意と友情を深めるか
- みんなのためになるかどうか

例会プログラム

第17回 11月1日
 通算1575回

1. 開会の点鐘 17時30分
2. ソング
 「君が代」
 「4つのテスト」
3. お客様の紹介
4. 会務報告
5. 卓話
 ハウス食品(株)
 奈良工場長 西尾 哲 様
 「ハウス食品(株)の
 製品開発と品質対応に
 ついて」
6. 閉会の点鐘 18時30分

例会状況報告

第16回 10月25日
 通算1574回

● 会員数	69名
● 出席免除者数	23名
● 出席者数	52名
● 出席率	86.67%

第14回 10月11日
 通算1572回の修正

● 会員数	69名
● 出席免除者数	23名
● 出席者数	58名
(内補填者数)	4+2名
● 出席率	93.55%

来るのかな、という感じがしております。と申しますのは、当クラブの場合60代特に団塊の世代のメンバーが非常に多く、皆さん5年、10年と経つと歳をとっていくということになるのですが、何れその方達が退会されるといことが問題になってくることあるかと思ひます。それと地区の委員長が「統計的に見て、大体そのクラブの平均年齢が65才を超えると衰退は始まる」とおっしゃっていました。当クラブは概況報告等見るとまだ若いのですが、やはり日頃からしっかり会員増強をしていかなければ（平均年齢が）65才を過ぎると衰退が始まるということです。裏面に奈良県下のクラブの会員数の動向がありまして、どちらかというやはり人数の少ないクラブが減少してしまうことが多いようで、それでなくても基盤が弱いのに人数が更に減ってしまい、財政基盤が非常に弱くなってしまふ、ということらしいです。その中で当クラブは割と堅実に推移しておりますが、奈良西RCが2004年辺りと比べると非常に躍進している、ということです。今回も奈良西RCの話が色々取り上げられたのですが、参考になることが二つありました。まず一つ目が、今私手を挙げて「はい」と言つて出て来たのですが、奈良西ではそれを励行しているらしいです。そうすると「クラブの雰囲気非常に良くなる」というようなことをおっしゃっておられました。それとこれは前々から申し上げておりますが、例会が終わつた後、会費1,000円で茶話会を一時間しているということで、こちらの方も会員同士の交流が非常に深まり、和氣藹々とした非常に良い雰囲気になっており、そういうことも会員増強に役立っているのではないかといいことでした。是非この辺りもご検討頂きまして、会員増強に活かしていければ、と思つております。

坂井会員

今年も正倉院展（第63回）が10月29日（土）～開催されます。枚数に限りがありますが、招待券がございますので、お帰りの際にお持ち頂ければと思ひます。受付の所に置いておきます。

幹事報告

以前より案内させて頂いておりますiFAXをテストしております。前回はダルクの講演会のご案内をさせて頂きました。何か不都合等ございましたら、私の方まで連絡頂けたらと思ひます。これからiFAXを利用していきたいと思ひますので、宜しくお願ひ致します。

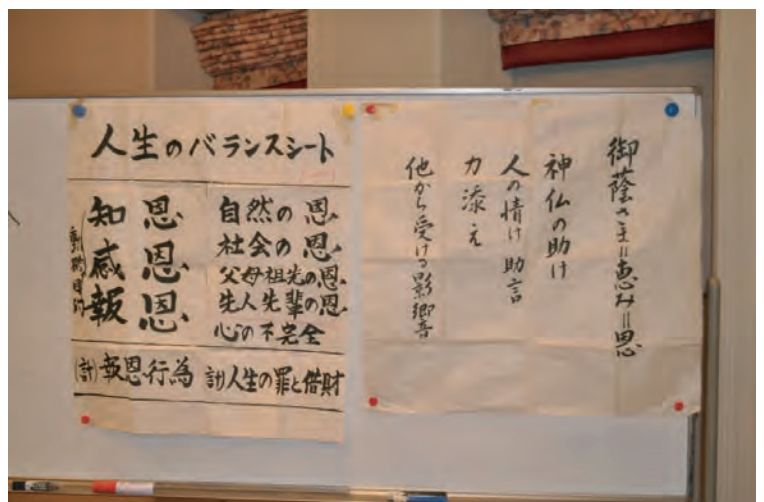
卓話「奉仕活動の原点をもとめて」

シバタ製針株式会社 代表取締役 柴田 修 様（大和高田RC）

こんばんは。大和高田ロータリークラブの柴田でございます。今月は、職業奉仕月間であり、米山奨学会の月間です。そこで、職業奉仕の原点というのはどこにあるのか、ということ、私なりに考えてみたいと思ひます。

私たちの日本には世界に誇るどころの美しい日本語、大和ことばが多くあります。たとえば、「もったいない」という言葉、マータイさんが世界に日本のお株を奪つて宣伝もしていただいています。外国の方にはなかなか日本の言葉は理解できないうとよく言われます。私どもの得意先のタイの人がお越しになり、こんな話をされました。日本人は家族が出かけるときに、出かける家族に対して、留守番の者がよく「いつていらっしやい」という言葉を使ひます。これから出かけようとする人に対して、「どうか、無事で、早く帰つてきてちょうだいよ。」そういう、いわゆる祈りの言葉であり、相手を思う言葉です。なかなかこれは外国の人は理解ができません。「いつてきなさいよ、元気でね」という程度かと言われました。日本には素晴らしい言葉が多くあることを、タイの人から教わりました。

「御蔭さま」という言葉を私たちは挨拶のように日に何度も使ひます。この言葉も、日本民族が世界に誇るどころの素晴らしい言葉であります。いったいどのような意味でしょうか。そう改めて問われると「御蔭さま」は「御蔭さま」だとしか言えませんが、広辞苑では「祈ると一生懸命に努力します。お互いに一つの目的に向かつて努力します。そうすると、つい「御蔭さま」という言葉を使ひます。しかしながら、この「御蔭さま」と



というのは、私も一生懸命に努力しましたが、人の情け、助言、力添えなど、自分以外のいろんな力をいただいて物事が上手くいった、感謝と喜びの言葉である。」と書いてあります。宗教的に言うと、神や仏の助けをいただいたということです。その感謝と喜びの言葉を私たちの祖先が「御蔭さま」という言葉で私たちに伝えているのです。

これを、私たちの毎日の生活において当てはめてみると、神仏の助け、自然の恵み、そして恩です。私たちは毎日の生活において、太陽、熱、光、水、空気をいただいて、生活をしています。食事をしたとします。お魚も野菜もみんな命がありました。しかも、自然の恵みによって育ったものです。その命があるところの食べ物、生き物が食膳に上り、私達の生命をつなぐために、やってきたのです。それを、いただいています。だから、祖先は「いただきます」という言葉を残してくれました。外国の場合は「乾杯」くらいで終わります。食事が終わると「いただきました」と言います。命をいただく、自然の恵みによって、生きているものの命をいただいて、私達の生命が繋がっているということなのです。

次に、「社会の恩」です。私たちが快適な生活ができるのは、先人、先輩がご苦労願ったからなのです。エジソンが電灯を考えてくれたおかげで、夜も明るく素晴らしい夜を送れます。マルコーニはテレビを考えてくれました。医学においても、ある時は自分の体を犠牲にして、新薬を考えてくれました。

もう一つは、「祖先の恩」です。私たちの親、祖先のことです。人間の歴史は、5億年とか6億年といわれています。私たちの今日があるのは、長い人類の歴史の中に、親から親へと続いていて、その頂点に私がいるのです。どこかで切れていたら、私の命はありません。命とは「息」と「血」である。息をし、血が流れているから、生きているのです。越前の永平寺を開祖された道元禅師は「ありがたい」という言葉を残されました。人間として、この地球上に生命をいかに至難であるか、この地球上には何万種類という生物がありますが、その中で人間として生まれてくることは非常に困難なことであるということです。「太閤記」を記された吉川英治さんは、次のような言葉を残されました。「私は親に会いたいな、祖先に会いたいな、と思ったときに、自分の脈を押さえる。私の脈を通して、親、祖先が私の体内で共に生活していることの実感を味わうことができる。」私はこの言葉を聞いて、何と素晴らしいなと思い、朝仏壇に手を合わせる前に、毎日必ず自分の脈を押さえます。そればかりでなく、字が読める、言葉が、火を使うことができる。みんな、先人・先輩の努力の結果を受けています。全て私たちは、いろんなご恩を受けて、まさしく生かされているというのが、私たちの今日ではないかと思えます。

この「恩」ということ、「生かされている」ということに対して、タレントの永六輔さんは、「生きているということは 誰かに借りをつくること 生きていくということは その借りを返してゆくこと 誰かに借りたら誰かに返そう 誰かにそうして貰ったように 誰かにそうしてあげよう」という素晴らしい詩を残されました。私たちは毎日毎日の生活において、いろんな恩を受けていますが、恩というものは人生の借金なんだと言われていています。借りたものは返すというのが人生のルールです。先祖代々借金を積み上げてきて、自分もまた借金を重ねます。同時に、人間というものは、非常に心が不完全であります。物事が都合良くいくと、俺が俺がとなりますが、上手くいかないと、不満が出てきて、相手のせいになります。心が非常に不完全であります。瀬戸内さんは、「人間は生きているだけで、罪を作っている。」と書いています。「生きていくということは その借りを返していくこと」です。お互いに、みんなに支えられて、目に見えない、いろいろな恩を受けています。そして、それが分かったということは、恩を知ったということです。それは、気づくということです。私たちは気づくということが大切です。これを「知恩」といいます。そんなに多くの方々から、お世話になっている、ありがたいことだと気づきます。ここで、感謝の心がおきます。しかし、これだけでは人生の借金を返すことはできません。たとえば、銀行からお金を借ります。支払通知書が来ます。お金の段取りをします。でも段取りをただけでは借金は減りません。実際に銀行に振り込んではじめて借金はなくなります。人生の借金は請求書が来ませんが、人生における、もろもろの借金、自分を含めて、先祖代々の借金が残っています。バランスシートでは赤字です、少しでも黒字にしようと、借金を返す行動をします。この人生の借金返しを「報恩」という言葉で呼んでいます。

なぜ、こんな話をするかといいますと、それは、ロータリークラブがなぜ多くの方々から、尊敬と信頼をおかれるのか、それは、この報恩行為に対して、世間の人々が高く評価してくれる、この職業を通して社会に貢献する、これがロータリーの信条です。ロータリーの綱領は、職業を通して社会に奉仕するということになりますが、特別な職業の人は別にして、一般の企業人には大きな落とし穴があります。企業には利益を上げるという、絶対的な使命があります。その目的に対して手段を間違えると企業の不祥事が起きます。私たちが、自

分の職業を通して、ひたすら社会に奉仕をする、これがロータリアンの責務であります。しかしながら、口では言えるが、実際に行うのは難しいものです。経営の神様と言われた松下さんは、「利益というものは、社会貢献の度合いである。」「利益が出ないということは、社会に貢献していないということである。」とまで言い切られました。したがって、私たちは赤字は絶対に許されないのです。私たちは、どれだけ社会に対して、職業を通して、奉仕をするかです。「もっとも奉仕する者が、もっとも報われる。」と言われます。とはいうものの、半信半疑のところもあります。しかしながら、ロータリーの先輩がそうおっしゃった、信じようではありませんか。われわれのロータリーの職業奉仕というのは、あくまで過去累々の借財の弁済であり、報恩奉仕であるということ、徹頭徹尾肝に銘じるのです。それは、「御蔭さま」に対して感謝をし、「御蔭さま」によって企業が成り立っている。私達の周りには支えてくれるいろいろな人がおられます。それに対しても報いていこうじゃないか、これがなかったなら、ロータリーの奉仕は、良い悪いは別として、単なる盆踊りなどの祭りの寄付と一緒になってくるのです。奉仕の基本というのは、人生の借金を返していくんだということが基本です。先ほど、お話がありましたが、新入会員が2年か3年で20%退会する。せっかく宝の山に入りながら退会する。それはロータリアンとしての奉仕の喜び、醍醐味が分かっていないから退会するのです。今月は職業奉仕月間でございます。どうかお互いに頑張っていきたいと、私は私の心に言い聞かせているところでございます。ご静聴有難うございました。

ニコニコ箱

本日計 46,000円 累計 1,144,000円

柴田 修 様 (大和高田RC) 本日は卓話をさせていただきます

増井義久 君 宮西さん高野さん会員増強地域別会議 お疲れ様でした。シバタ製針(株)柴田修社長 本日宜敷
お願いします。

小西敏文 君 柴田社長 本日はお忙しい中卓話ありがとうございます。楽しみに聞かせていただきます。

土谷宗一 君 柴田社長の卓話 ありがとうございます 米山の寄付もよろしく

有井邦夫 君 藤井さん先日は大変な事に対し御指導戴きました事に感謝致します

橋本和典 君 ミク姫(3才9ヶ月)の2回目の敬老参観に行きました。ステージで皆と大きな口を開けて元気一杯歌ってくれました。入園時はオムツが不安だったのにすっかりお姉ちゃんです。妹のミソラちゃん(7ヶ月)も下の前歯が萌えてきていつもニコニコよく笑います。それにつられて私もニコニコします。

森 一紀 君 先日は 結婚記念日を祝って頂きありがとうございます。

弓場裕史 君 新入会員歓迎会ではお世話になりました。ありがとうございます。

高木伸夫 君 連続欠席のお詫び。

中村信清 君 ニコニコ協力

松岡弘樹 君 ニコニコに協力

谷川千代則君 ニコニコ協力

植村将史 君 先日東大寺学園幼稚園の運動会に行ってきました 長年小学校の運動会をプロデュースしておりましたが 想像していたよりレベルが高く びっくりいたしました

次週の例会

11月8日(火)

卓話 産経新聞 大阪本社 編集局 奈良支局 支局長 河村 直哉 様
「大災害のあと」